MEJIRO UNIVERSITY ECO CAMPUS REPORT

エコキャンパスレポート 2015

目白大学・目白大学短期大学部

PRESIDENT MESSAGE

学長挨拶

目白大学学長　佐藤 郡衛

私は、これまで多文化社会における教育について考えてきました。そのキーワードが「共生」です。「共生」には多様な意味合いが含まれていますが、人間同士の関わり、人間の生き方、あるいは人間と環境のあるべき姿を示すことばとして用いられています。ただ、曖昧で、しかも情緒的に使われることが多いため、現実には、さまざまな問題もはらんでいます。環境との「共生」は、自然環境を大切にしよう、緑を大切にしようというだけでは何の解決にもつながりません。これまでの自然や環境とのかかわりを見直し、その上でどのような関係をつくりあげるかを考えていく必要があります。自然環境と私たちがどのように「共生」するかは、私たちがどのような社会をつくるかにかかっています。腰を据えて、環境との「共生」に取り組む必要を痛感しています。このレポートはそうした試みの一つであり、これからの実践の指針になればと期待しています。

ECO CONTEST

エココンテスト

ECOコンテストは、学生一人ひとりのエコ意識向上をめざした全学参加型キャンペーンです。社会学部メディア表現学科の河合良文教授のイニシアティブにより、2011年度にスタートして以来、毎年ちがった切り口で《エコへの気づき》をキャンパスに拡げています。2015年度は『エコする君はカッコいい〜ecoooool（エクール）フォトコンテスト』と題して、自分の日常生活で見つけたエコなシーンを写真に撮って応募してもらいました。集まった作品は67点。選考委員会によって最優秀賞1点、優秀賞2点、エクール賞15点が選ばれました。審査発表と表彰式、展示の行われた桐和祭（学園祭）会場では、「なるほど、こんなエコもありだよね」という発見と共感の声が上がっていました。

コンテストうちわ

桐和祭での表彰式

ECO PRODUCTS

エコプロダクツ

2015年12月10日〜12日、東京ビッグサイトで開催された「エコプロダクツ2015」に本学が出展しました。エコプロダクツは今年で17回目を迎えた日本最大級の環境イベント&展示会。企業はもちろん、自治体、NPO・NGO、大学・教育機関などにおけるビジネスパーソンから、生活者、子どもたちまで、3日間で約17万人が来場しました。3回目の出展となる本学は、「全学的エコキャンパスづくりへの提案」をスローガンに、最近のハード・ソフト両面からのエコキャンパスづくりに関するパネルを展示。ブースでは学生・教職員が、大学における環境への取り組みや、学科・ゼミのユニークなエコ活動・環境学習について説明・紹介し、多くの方々に足を止めていただきました。

エコプロダクツ2015に出展

FACILITIES

環境のための設備

コミュニティ・プラザKiriの竣工

2015年7月、岩槻キャンパスに新たな学生の拠点「コミュニティ・プラザKiri」が誕生しました。鉄骨造地上2階建て、延べ床面積495㎡の小規模多目的校舎です。学生の自習室やグループ学習の場として、また食事や憩いの場、交流のスペースとして、広いラウンジと使い道を限定しない小部屋11室を有しています。さらに1階には女子学生のためのパウダールームが完備されるなど、全体的にシンプルながらも木材がふんだんに使われた温かくやわらかい雰囲気の内装に仕上げられ、ゆったりと過ごせる空間になっています。とりわけ、風の通り道を確保した吹抜けや換気窓、機能性に優れ省エネ効果もある軽量高耐候性屋根、再生木材を使用したデッキテラスやパーゴラ、複層ガラスや日射調整のためのUVカットフィルム、調湿効果のある木製天井・ルーバー、そしてすべてLED化した照明器具（調光機能付き、電気代41％削減）など、環境に配慮した設計をいたるところに施しています。

ラウンジ

外観

目白大学の環境対策

省エネルギー対策
- ソーラーシステム
- 集中制御空調システム
- 高効率空調システム
- ヒートポンプ式給湯器
- 人感センサー
- 省エネ照明（LED、インバーター式蛍光灯）
- 氷蓄熱システム
- 風力発電
- 目白学園電気予報

緑化対策
- 700種類以上の樹木管理
- 屋上緑化
- 緑のカーテン
- 透水性インターロッキング
- ビオトープ

省資源対策
- 再生紙の利用
- 天然石鹸の使用
- 空き缶回収装置
- 中水道システム

その他の対策
- ごみの分別
- 喫煙所以外の全面禁煙
- UVカット窓ガラス
- グラウンドの砂埃防止

太陽光発電

高効率空調機

屋上緑化

中水道システム

ビオトープ

ECO ACTION エコアクション

ECOアクションは、学生自らが企画し実施する環境プロジェクト。「環境問題という地球規模の問題に対して、私たちはどんなことができるでしょうか?地球のため、未来のため、どんな小さな取り組みでも構いません。足元から、今日から、なにか行動(アクション)を起こしましょう!」との呼びかけに対して、2015年度は11件の意欲的な応募がありました。その環境マインドとアクション性が評価され採択された企画9件(2件はリタイア)を紹介します。桐和祭(学園祭)ではECOアクションの成果報告(中間報告)のパネル展示が行われました。

2015年度　採択・実施企画一覧

1. 緑のカーテンのゴーヤでゴーヤ茶を作ろう! (地域社会学科　飛田ゼミ)
2. ゴミ拾っちゃい隊 (児童教育学科　新聞委員)
3. 大学周辺の落葉を集めて芸術作品を作ります (短期大学部　生活科学科ゼミ)
4. 飛び立て!!メジロ。(メディア表現学科　川端ゼミ　チームeven)
5. 保冷剤でキラキラ芳香剤を作ろう! ～three birds～ (子ども学科　西山ゼミ)
6. 廃油で石けんを作ろう (地域社会学科　飛田ゼミ)
7. ポイントカードでNOレジぶくろ (地域社会学科　飛田ゼミ)
8. 気仙沼に椿の防潮林を。(社会情報学科　TSUBAKI)
9. 竹をリサイクルして竹炭を販売しよう (作業療法学科　Over Age)

ゴーヤの収穫

海辺のごみ拾い

フリーマーケット

竹炭づくり

ECOLOGY & PROJECTS エコプロジェクト

気仙沼に椿の防潮林を

気仙沼で植樹

東日本大震災で津波被害を受けた宮城県気仙沼市では、現在、防潮林の機能も兼ねた沿岸部への植林「前浜椿の森プロジェクト」が進行中です。本学ではこのプロジェクトの支援活動として、社会学部社会情報学科の廣重剛史専任講師のもと、約20名の学生有志が、植樹する苗木の育成や、現地での植樹活動を行っています。2015年9月1日～3日に開催された植樹ツアーには、このうち4名の学生が参加。現地で地元の方々と一緒に植樹作業を行いました。植樹地も、地元の方々の指導を受けながら、ナタやノコギリを使って自分たちで造成。地道な作業の繰り返しによって、これまで約300本の苗木を植樹しました。また、本活動の大きな特徴として、新宿区にお住まいの高齢者の方々との交流活動があります。それは「被災地支援」という枠組みを超えて、自分たちが暮らす地域の身近な高齢化問題と向き合う機会を学生に提供しています。このような学生の取り組みが、被災地と支援地域の新しい互恵的なネットワークを作り始めています。

新宿エコ市民大学

エコ市民大学

2016年1月29日～3月25日の期間、隔週で5回にわたり、新宿区神楽坂にある高齢者福祉施設「神楽坂」の地域交流スペースで、目白大学地域連携・研究推進センター主催の「新宿エコ市民大学」が開講されました。サステナブル社会の構築とそれを担う人材の育成のため、大学、学校、行政、企業、NPO、市民団体など、様々な主体の連携・協力とネットワークの形成が求められています。本プロジェクトは、新宿区内で環境教育、環境保全活動、環境ビジネスなどに積極的に取り組んでいる方々の事例報告や話題提供と、それを受けての意見交換を通して、エコ活動の視点から市民社会の未来を創造しようというコンセプトのワークショップです。講師陣の顔ぶれは様々で、毎回取り上げられるテーマもまた様々。社会学部地域社会学科の飛田満教授が企画し、飛田ゼミの学生サポーターも加わって、新宿区に在住・在勤の方々を中心に毎回15名ほどの参加者が集いました。

森の学園・歳時記

2015年5月～7月、新宿区神楽坂にある高齢者福祉施設「神楽坂」のエントランスホールにて、学校法人目白学園「地球環境の保全及び低炭素社会への貢献」推進委員会制作のパネル「森の学園・歳時記」が展示されました。目白大学新宿キャンパスは都心にありながらも豊かな緑に包まれており、「森の学園」の愛称で親しまれています。キャンパス内に生育する樹木・草花は700種類以上にものぼり、定期的な除草・剪定・施肥によって植栽管理され、大切に保護されています。本企画は同キャンパス内に見られる四季折々の樹木や草花を写真と解説とともに紹介していくシリーズ。今回は創刊、サクラ、キリの3号を制作展示、今後も随時継続の予定です。

サクラの号

COLUMN [コラム]

子どもと自然～動物飼育～

人間学部子ども学科では、「子どもと自然」の授業の一環として動物飼育を行っています。主に、子どもが触れ合い親しみやすい種類を中心に、ウサギやウコッケイ、カメなどを飼育しており、今年度からはバンダマウスが仲間に加わりました。動物飼育は毎日継続的に行わなければならず、飼育者の都合で中断することはできません。そのため、動物を飼育することで生命の尊厳を学ぶばかりではなく、責任感や判断力、コミュニケーション能力の向上など様々な教育的効果が得られるとされています。動物を飼育する園や学校も多くあり、教育現場での更なる活用が望まれています。これらのことから、子ども学科では「子どもが動物と親しむ場を提供できる」人材を養成するために動物飼育を取り入れています。学生自身が実際に動物を飼育することで、飼育方法や動物の生態を理解し、保育に活かすための基礎を学ぶ重要な機会となっています。

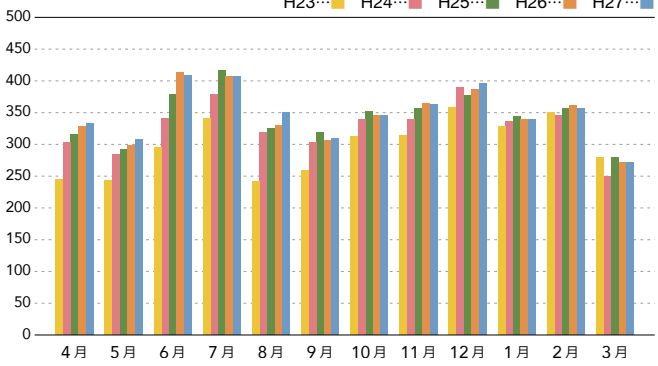
うさぎ飼育

DATA

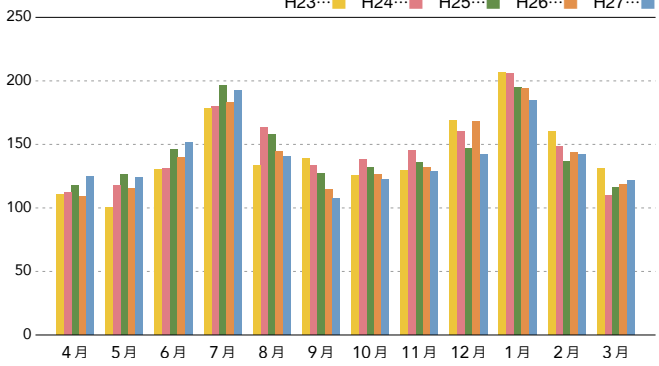
環境負荷データ

電気使用量（単位：千kwh）

新宿キャンパス

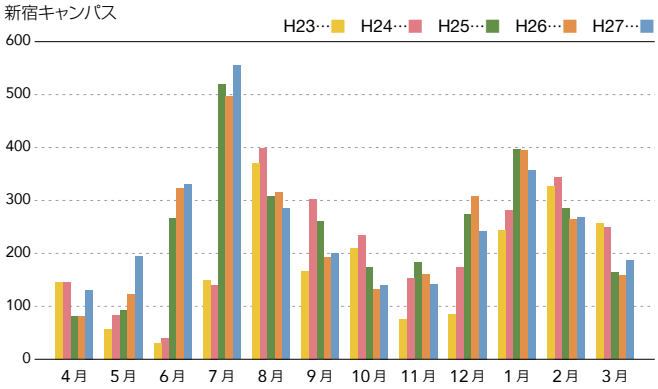


岩槻キャンパス

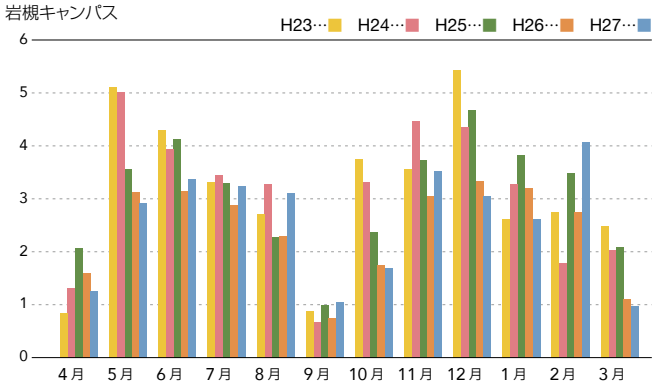


ガス使用量（単位：百㎥）

新宿キャンパス

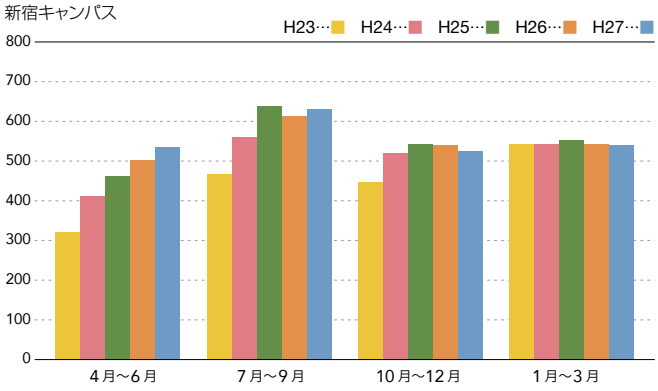


岩槻キャンパス

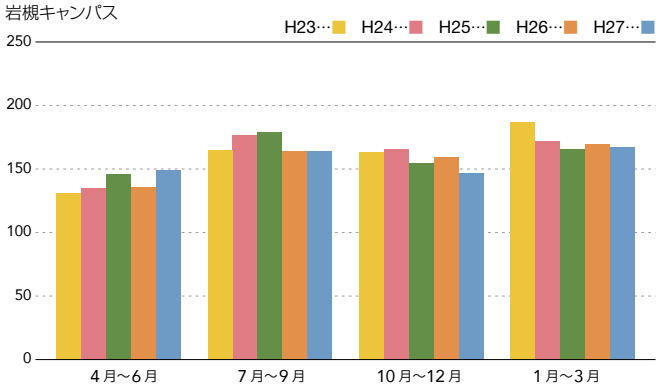


CO_2 排出量（単位：t）

新宿キャンパス



岩槻キャンパス



目白大学

新宿キャンパス　東京都新宿区中落合4-31-1 TEL:03-5996-3117
岩槻キャンパス　埼玉県さいたま市岩槻区浮谷320 TEL:048-797-2222
http://www.mejiro.ac.jp

設置者	学校法人目白学園（尾﨑春樹理事長）	
目白大学	設立年	平成6年　目白大学設置
	学生数	5,920（平成28年5月1日現在）
	設置学部・学科	人間学部　心理カウンセリング学科／人間福祉学科／子ども学科／児童教育学科
		社会学部　社会情報学科／メディア表現学科／地域社会学科
		経営学部　経営学科
		外国語学部　英米語学科／中国語学科／韓国語学科／日本語・日本語教育学科
		保健医療学部　理学療法学科／作業療法学科／言語聴覚学科
		看護学部　看護学科
	大学院	国際交流研究科／心理学研究科／経営学研究科／生涯福祉研究科／言語文化研究科
		看護学研究科／リハビリテーション学研究科
目白大学短期大学部	設立年	昭和38年　目白学園女子短期大学設置（平成12年 目白大学短期大学部に名称変更・改組）
	学生数	441名（平成28年5月1日現在）
	設置学科	生活科学科／製菓学科／ビジネス社会学科

新宿キャンパス本館

岩槻キャンパス本館

目白大学・目白大学短期大学部　エコキャンパスレポート2015
平成28年11月21日 発行　学校法人目白学園「地球環境の保全及び低炭素社会への貢献」推進委員会　〒161-8539 東京都新宿区中落合4-31-1